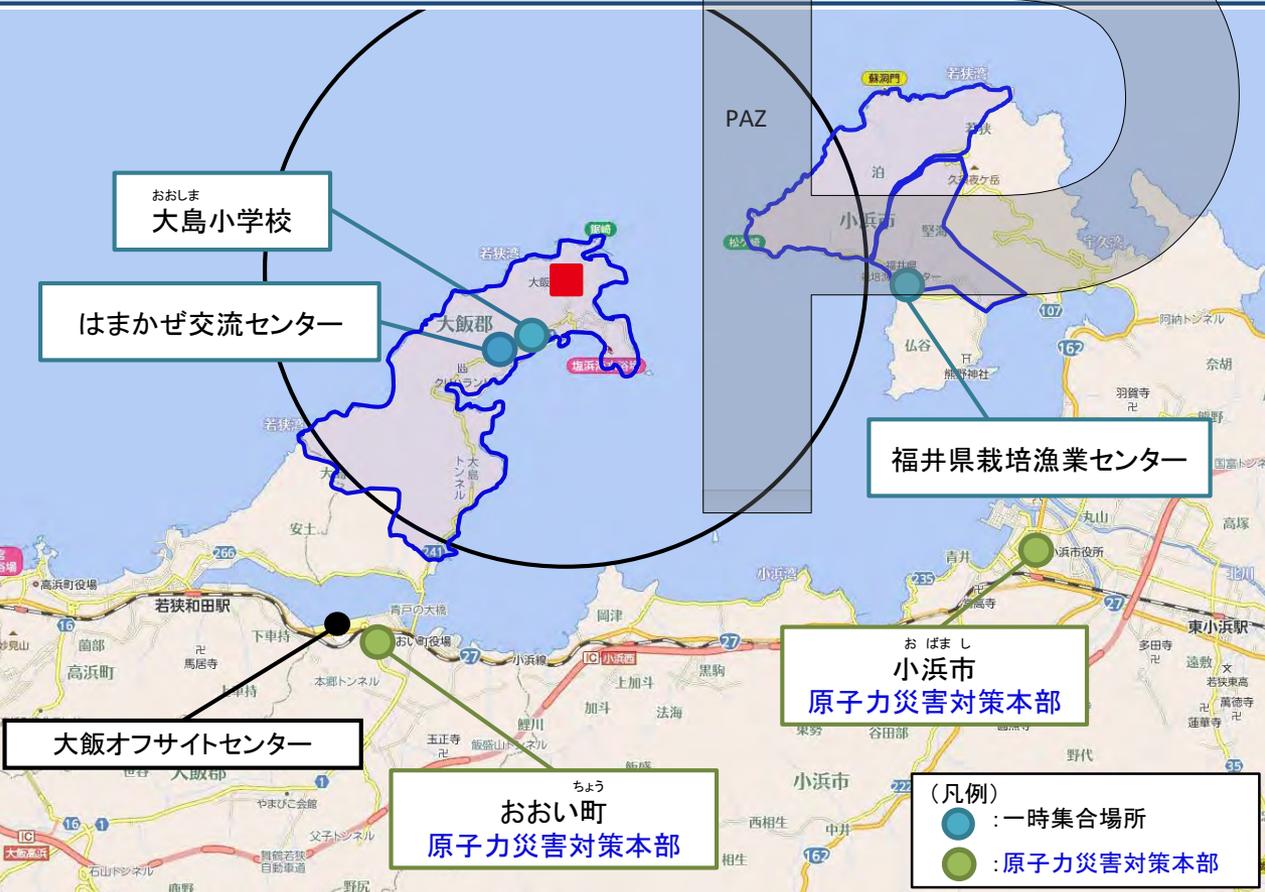


# ちよう おぼし おおい町及び小浜市における住民への情報伝達

- PAZ内避難の対象となる地区内の一時集合場所を拠点に、地区単位のコミュニティを活用した情報伝達を実施。
- 一時集合場所へ派遣された市町の職員は、防災行政無線の双方向通信機能や衛星携帯電話等により、おおい町及び小浜市原子力災害対策本部と情報を共有。各市町原子力災害対策本部は、入手した情報を防災行政無線(屋外拡声子局・戸別受信機)、緊急速報メールサービス及び広報車等を活用し、住民へ情報を伝達。
- 消防団は、住民の避難の状況等を確認し、一時集合場所に派遣されたおおい町及び小浜市の職員と避難者の状況や避難誘導體制等の情報を共有。
- 小学校、こども園、在宅の避難行動要支援者への情報伝達は各市町原子力災害対策本部等から実施。必要に応じ、自治会長等と協力し、情報伝達を行う。



- 防災行政無線やケーブルテレビ放送、緊急速報メールサービス等を活用し住民へ情報を伝達
- 戸別に受信可能な防災行政無線や音声告知放送を市町内全戸に設置
- 小学校・こども園、在宅の避難行動要支援者への情報伝達は、各市町原子力災害対策本部が実施



- おおい町及び小浜市原子力災害対策本部・一時集合施設(一時集合場所)間の情報共有は、防災行政無線の双方向通信機能や衛星携帯電話等で実施

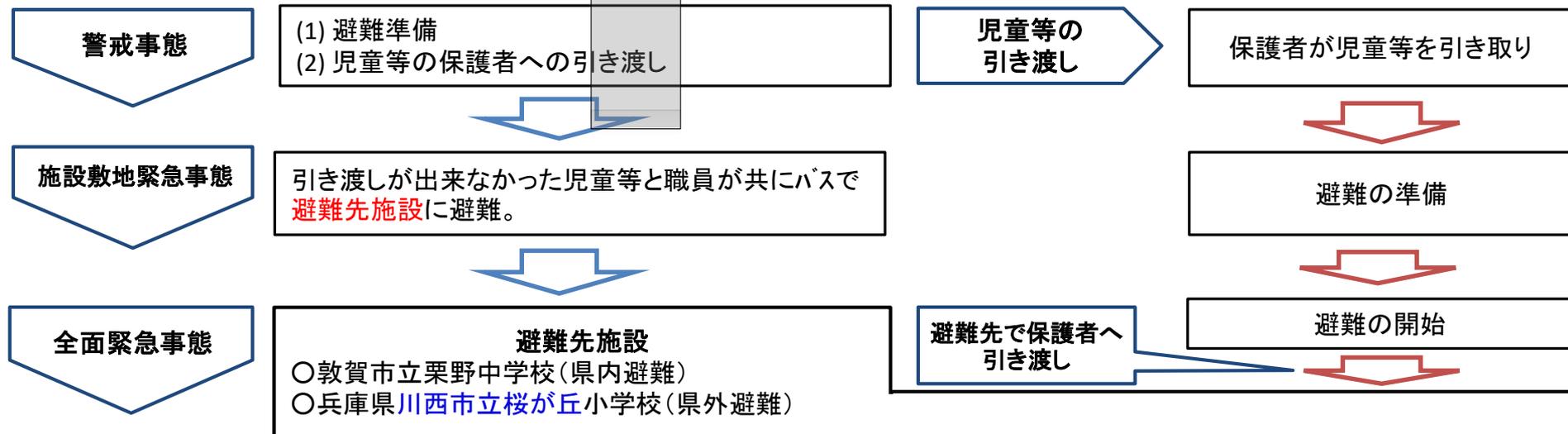


# PAZ内の学校・保育所の児童等の避難

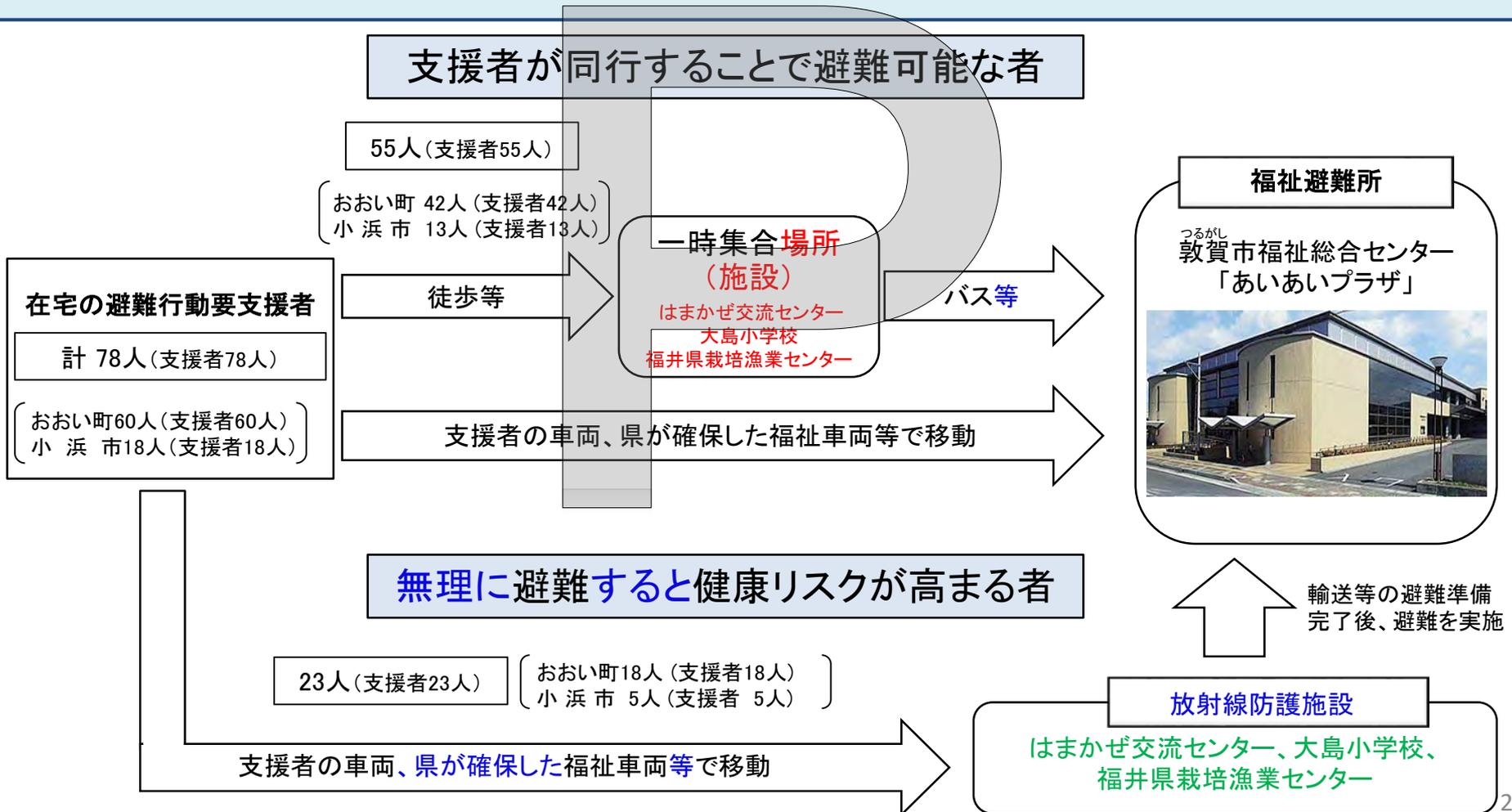
- PAZ内の<sup>おおしま</sup>大島小学校の児童(48人)及び<sup>おおしま</sup>大島認定こども園の幼児(60人)は、警戒事態になった時点で授業・保育を中止し、保護者へ引き渡す。
- 施設敷地緊急事態になった時点で、保護者への引き渡しができない児童等は、職員とともに福井県又は<sup>おおしま</sup>おおい町が確保するバスで避難し、避難先において保護者に引き渡す。
- 全ての学校・<sup>おおしま</sup>こども園において個別避難計画を策定済。

学校名	学校・保育所		
	人数(人)		合計
	児童等	職員	
<sup>おおしま</sup> 大島小学校	48	13	61
<sup>おおしま</sup> 大島認定こども園	60	19	79
<b>合計</b>	<b>108</b>	<b>32</b>	<b>140</b>

※児童等の人数については、平成28年5月1日現在。



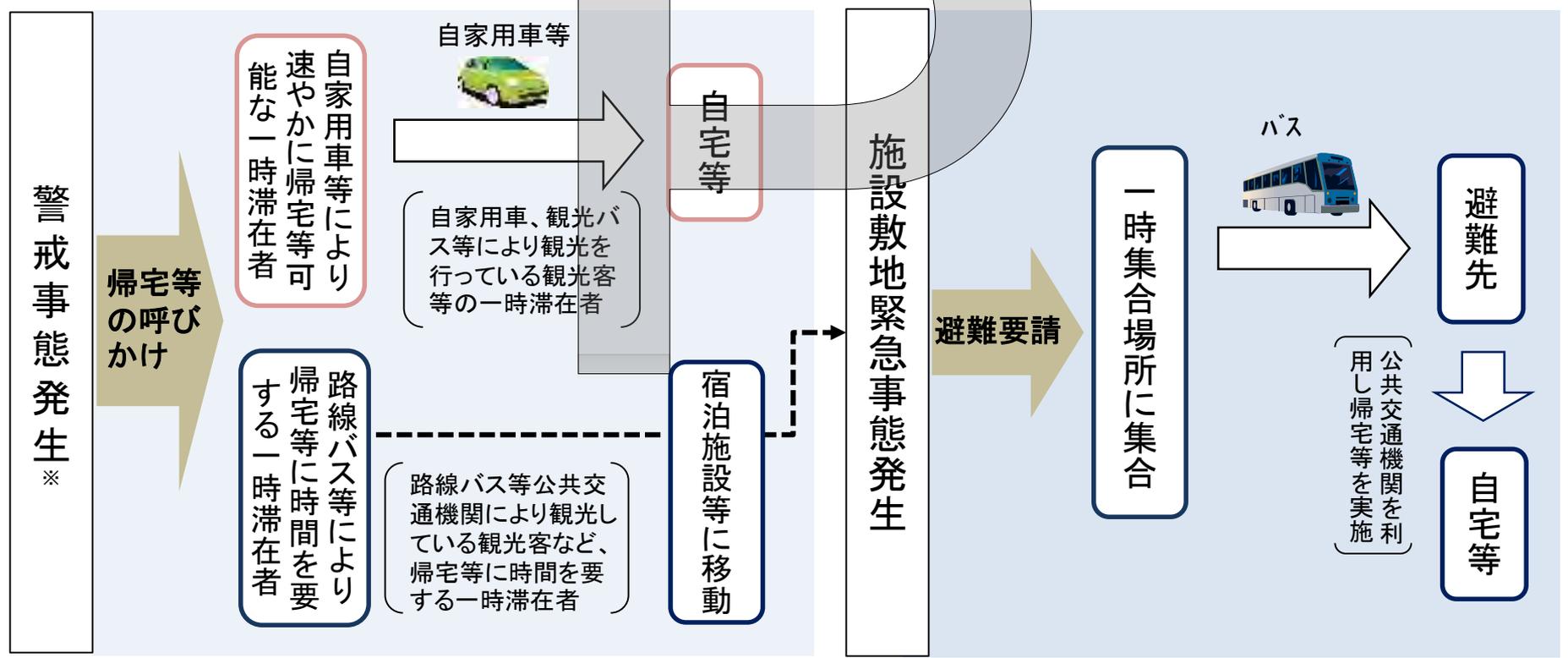
- おおい町及び小浜市では、在宅の避難行動要支援者78人全ての者について、避難先は決定済みであり、要支援者台帳を整理の上、家族、近隣住民等の協力を得て、避難時の支援者がいることを確認。
- 支援者の同行により避難可能な者は、支援者等の車両又はバス等で避難先へ移動。
- 無理に避難するとかえって健康リスクが高まる者は、支援者の車両又は福祉車両で、近傍の放射線防護施設へ移動。



# PAZ内の観光客等一時滞在者の避難

- ▶ 観光客等一時滞在者については、警戒事態において、帰宅等呼びかける。
- ▶ 自家用車等により速やかに帰宅等可能な一時滞在者は、警戒事態の段階で、自家用車等にて帰宅等を開始。
- ▶ 路線バス等公共交通機関により観光している観光客など、帰宅等に時間を要する一時滞在者については、宿泊施設等に移動し、施設敷地緊急事態の段階で避難を実施。避難の際には、徒歩等により一時集合場所に集まり、福井県や関係市町が確保した車両により避難を実施。

## <観光客等一時滞在者の避難の流れ>



※例えば立地県で震度6以上の地震が観測され警戒事態となる等、発電所内の異常が伴わずに警戒事態に至るような場合等には、観光客等一時滞在者への帰宅の呼びかけは実施しない。 27

➤ PAZ内の観光施設における日間入場見込み人数は1,343人程度、民間企業(従業員30人以上)は存在しない。\*

※大飯発電所関連企業を除く

## <PAZ内の観光施設の状況>

地区名		施設	入場見込人数(人)	
おおい町	大島地区	赤礁崎オートキャンプ場	729	※1
		あかぐり苑地	355	
		あかぐり海釣公園	259	
			計 1,343人	※2
小浜市	内外海地区(泊、堅海)	—	—	
			0人	※3
			[合計] 1,343人	※4

※1 入場ピーク時(8月)の入場者数を基に算定

※2 おおい町商工観光振興課調べ

※3 小浜市商工観光課調べ

※4 入場者の9割以上が自家用車を利用

## <PAZ内の民間企業(従業員30名以上)の状況>

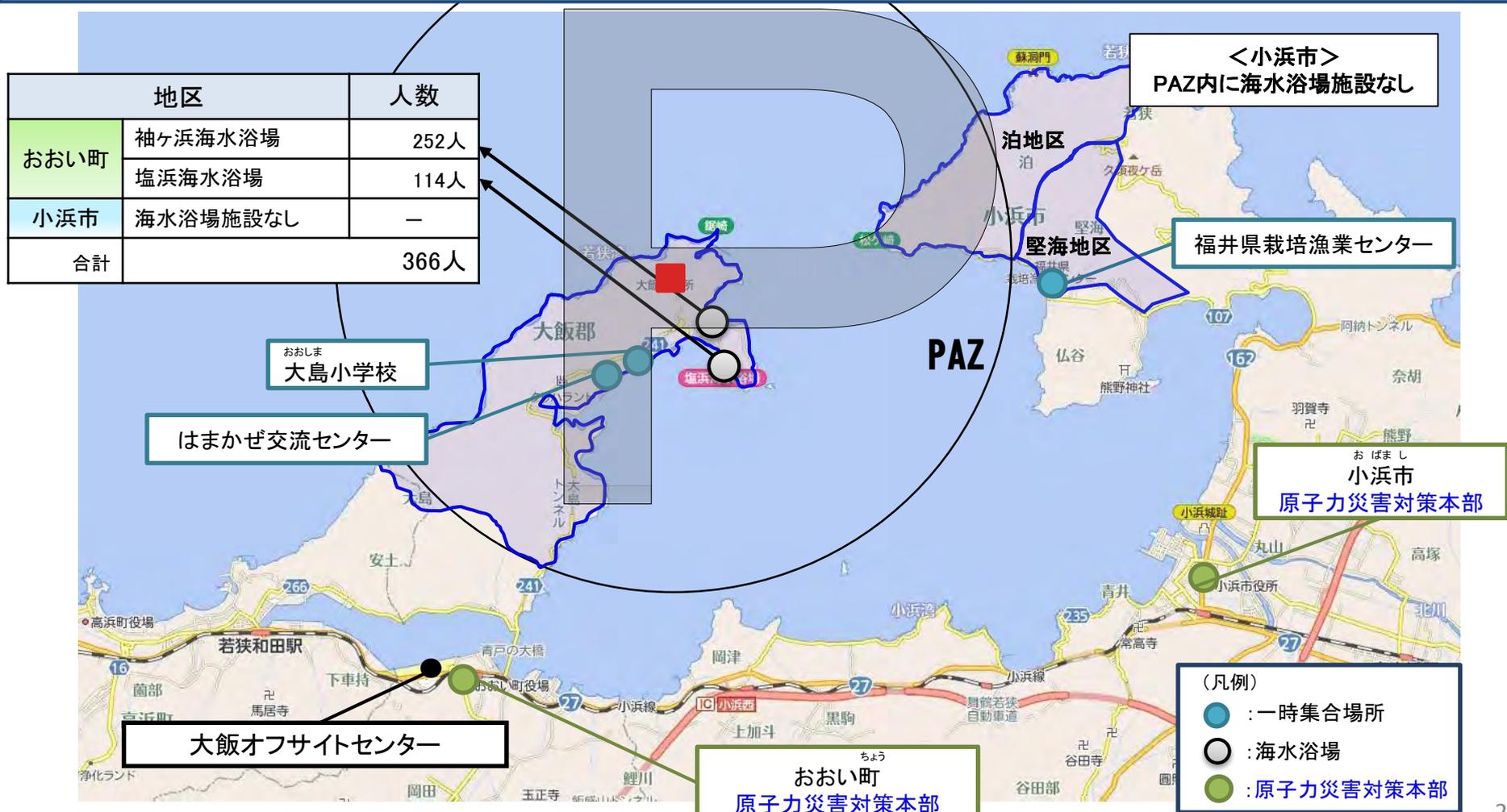
おおい町大島地区内及び小浜市内外海地区(泊・堅海)に、発電所関連以外で、発電所関連企業を除き、従業員30人以上の規模の事業所なし。

※ 30名未満の民間企業の従業員については、通勤に使用する自家用車、バスで避難

※ 出典:平成26年経済センサス

# PAZ内の海水浴場及び入場者の数

- おおい町ではPAZ内に海水浴場が2ヶ所あり、平成27年度シーズンの1日あたりの最大入込客数は約366人。
- おおい町の海水浴客の交通手段は、対象となる海水浴場周辺の駐車場利用率によると全体の9割以上が自家用車利用で、貸切バス及び公共交通機関の利用は1割に満たない。(平成27年度観光客入込調査おおい町)



➤ <sup>ちょう</sup>おい町において施設敷地緊急事態で必要となる輸送能力は、想定対象人数**432人**(うち支援者数**60人**を含む)について、バス**10台**、福祉車両**12台**(ストレッチャー仕様**5台**、車椅子仕様**7台**)。

	想定対象人数	必要車両台数※1			備考
		バス※2	福祉車両※3 (ストレッチャー仕様)	福祉車両※3 (車椅子仕様)	
学校・保育所の児童等の避難	児童等 <b>108人</b> +職員 <b>32人</b> (=140人) (2箇所)	4台 (児童等 <b>108人</b> +職員 <b>32人</b> )	0台	0台	保護者への引き渡しによりその分必要車両台数は減少【資料P25】
病院・社会福祉施設の入所者の避難		該当施設なし			
在宅の避難行動要支援者の避難※4	42人 +支援者 <b>42人</b> (=84人)	2台 (要支援者 <b>42人</b> +支援者 <b>42人</b> )	0台	0台	・支援者等の車両での避難によりその分必要台数は減少【資料P26】
在宅の避難行動要支援者のうち、無理に避難すると健康リスクが高まる者及びその支援者を放射線防護施設に輸送	18人 +支援者 <b>18人</b> (=36人)	0台	5台 (要支援者 <b>5人</b> +支援者 <b>5人</b> )	7台 (要支援者 <b>13人</b> +支援者 <b>13人</b> )	・放射線防護施設に輸送 ・支援者等の車両での避難によりその分必要台数は減少【資料P26】
観光施設から避難する一時滞在者	<b>135人</b> (1,343人×0.1)	3台	0台	0台	バス1台当り45人程度の乗車を想定1日あたりの観光客数1,343人のうち、9割以上が自家用車で訪問している(『平成27年度観光客入込調査おい町』)ことを踏まえ、その1割を想定対象人数として算入。【資料P38】
海水浴場から避難する一時滞在者	<b>37人</b> (366人×0.1)	1台	0台	0台	バス1台当り45人程度の乗車を想定1日あたりの海水浴客366人のうち、9割以上が自家用車で訪問している(『平成27年度観光客入込調査おい町』)ことを踏まえ、その1割を想定対象人数として算入。【資料P39】
<b>合計</b>	<b>432人</b>	<b>10台</b>	<b>5台</b>	<b>7台</b>	

※1 数字は現段階でおい町が把握している暫定値

※2 バスは1台あたり45人程度の乗車を想定

※3 福祉車両(ストレッチャー仕様)は1台あたり1人、福祉車両(車椅子仕様)は1台あたり2人の避難行動要支援者を搬送することを想定

※4 「無理に避難すると健康リスクが高まる者」は、輸送の準備が整うまで放射線防護施設内に屋内退避